

コロナ禍における「調理実習」を含む学習活動を安全に行うための工夫



「学校の新しい生活様式」において、「感染症対策を講じてもなお感染のリスクが高い学習活動」の中でも、特にリスクの高いものとして、家庭、技術・家庭における「児童生徒同士が近距離で活動する調理実習」が挙げられています。

本資料では、レベル1地域において、感染症対策を行った上で「調理実習」の実施を検討した場合を設定し、学習活動の例を示しています。コロナ禍においても、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、安心・安全に留意しながら、よりよい生活を創造する児童生徒の育成を目指していきましょう。

環境を整えよう



レベル1地域では、「感染症対策を講じてもなお感染のリスクが高い学習活動」については、**換気**、**身体的距離の確保**や**手洗い**などの感染症対策を行った上で、実施することを検討します。その際には、レベル2地域における留意事項も、可能な範囲で参照します。

【レベル2地域における留意事項】

- できるだけ個人の教材教具を使用し、児童生徒同士の貸し借りはしないこと。
- 器具や用具を共同で使用する場合は、使用前後の適切な消毒や手洗いを行わせること。

【検討する事項の例】

換 気



- 換気扇を運転させる。
- 調理室の窓を開ける。
※網戸が無くて虫が入り衛生的でなかったり、風でガスが立ち消えしたりする危険があるため、状況を確認する。

身体的距離の確保



- 自校の調理台で、児童生徒同士の間隔を1～2m以上確保しようとすると、何人の児童生徒が調理室に入れるかを確認する。

- 示範、材料や道具の受け渡し、試食時等、三密を避ける工夫が必要な場面を確認する。
- 児童生徒の動線を考えて、安全な方法を検討する。

手洗い等

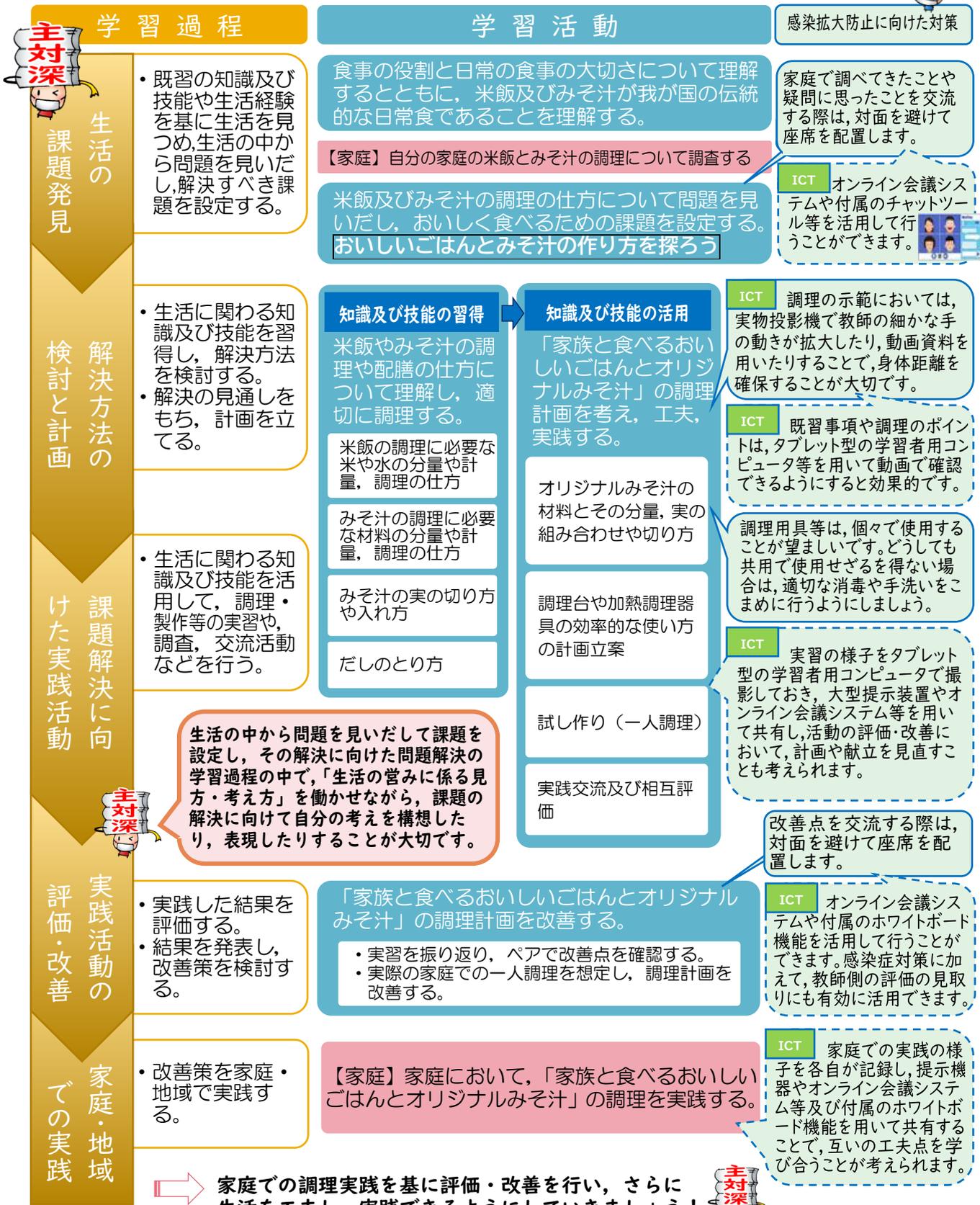


- 調理実習時の児童生徒の服装や手洗い等、衛生・安全面に配慮する。



題材名:おいしく作ろう 伝統的な日常食 ごはんとみそ汁

(小学校第5学年 内容B「衣食住の生活」(1)食事の役割, (2)調理の基礎 を想定)



参考 「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』～(2020.9.3 Ver.4)、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校家庭」、「教育の情報化に関する手引-追補版-」